

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：企業立地対策費

事業名 テクノプラザ活用促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 新産業・エネルギー振興課 成長産業係

電話番号：058-272-1111 (内 2935)

E-mail : c11353@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 750 千円 (前年度予算額：750 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	750	0	0	0	0	0	0	0	750
要求額	750	0	0	0	0	0	0	0	750
決定額	750	0	0	0	0	0	0	0	750

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・テクノプラザの活性化及び魅力の向上を持続的に推進するため、テクノプラザへの公共交通機関 (手段) を確保する。
- ・令和元年度までは、県、各務原市ほか関係機関でテクノプラザ活性化推進連絡協議会 (財源：県及び各務原市からの負担金) を構成し、岐阜乗合自動車 (株) に対し運行収支の欠損助成 (上限 1,500 千円) を実施。
- ・令和元年度に本協議会を廃止したうえで、令和2年度より、各務原市の取り組みに対して助成。

(2) 事業内容

○バス路線「VRテクノプラザ線」の運行補助

- ・経路 テクノプラザ～各務原高校前～坂井～各務原市民会館前～名鉄三柿野駅
- ・本路線の運行収支に欠損が生じた場合に、1,500 千円を上限として各務原市が岐阜乗合自動車 (株) に負担し、その 1/2 を県が各務原市に対し補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

テクノプラザエリア内には県有施設や工業団地があり、本路線の停留所であるテクノプラザの乗降者のため、県も一部負担する。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
補助金	750	バス運行補助
合計	750	

決定額の考え方

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	テクノプラザ活用促進事業費補助金
補助事業者（団体）	各務原市 （理由） ・ 県有施設や工業団地がありテクノプラザエリア内に停留所がある「VRテクノプラザ線」は、各務原市内のみを運行するバス路線であり、各務原市が直接助成するため。
補助事業の概要	（目的） ・ テクノプラザの活性化及び魅力の向上を持続的に推進するため、テクノプラザへの公共交通機関（手段）を確保する。 （内容） ・ 「VRテクノプラザ線」の運行収支に欠損が生じた場合に、各務原市が岐阜乗合自動車（株）に助成し、その 1/2 を県が各務原市に対し補助する。
補助率・補助単価等	定額・ 定率 ・その他（例：人件費相当額） （内容） ・ 「VRテクノプラザ線」の運行収支に欠損が生じた場合に、各務原市が岐阜乗合自動車（株）に 1,500 千円を上限に助成し、その 1/2 を県が各務原市に対し補助する。 （理由） ・ テクノプラザエリア内には県有施設や工業団地があり、本路線の停留所であるテクノプラザの乗降者があるため。
補助効果	・ 公共交通機関によるアクセスが乏しい立地条件であり、バス路線の運行収支の欠損助成をすることにより、その利便性を確保できる。
終期の設定	令和 6 年度 （理由） ・ テクノプラザエリアの駐車場台数が不足しており、公共交通機関の確保が重要であるため、継続的な支援が必要である。

(事業目標)

・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか
公共交通機関である「VRテクノプラザ線」を持続的に確保する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R1年度末)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
						64%
① 「VRテクノプラザ線」利用者数	13,353	10,166	14,413	15,300	16,000	64%

	H30年度	R元年度	R2年度
補助金交付実績	千円	千円	375千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	公共交通機関によるアクセスが乏しい立地条件において、バス路線の運行収入の欠損助成することにより、その利便性を確保した。 指標① 目標：13,883 実績：10,166 達成率：73.2%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	テクノプラザエリアの活性化及び魅力の向上を持続的に推進するためには、公共交通機関によるアクセスの利便性確保が重要である。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり (単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり (単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない (単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない (単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	令和2年度のVRテクノプラザ線利用者の約4割がテクノプラザ停留所を利用されている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	各務原市内にある県有施設の利便性確保のため、県と各務原市が連携しながら、バス運行の支援に取り組んでいる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 公共交通機関によるアクセスが乏しいため、バス路線の維持が必要である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ テクノプラザエリアの駐車場台数が不足しており、公共交通機関の確保が重要であるため、継続的な支援が必要である。
